

“子ども参画”子どもが育つ空間づくり

地域活動支援指導者養成研修会

日時：平成25年5月28日

会場：宮城県自治会館209会議室 参加者13名

<趣旨>

講話や実践発表などを通して地域活動支援についての理解を深めるとともに、地域活動のサポートやコーディネートができる人材の養成を図る。子どもの遊びや体験活動の場が少なくなっている現実を踏まえ、体験活動の場づくりに関する研修会を実施する。

講義「“だがしや楽校”で子ども・大人・地域がつながる」

講師 東北芸術工科大学

教授 松田 道雄（まつだ みちお）氏

13:00 受付

13:30 } 講義・演習

15:50 } 質疑応答

16:00 閉会

【“だがしや楽校”とは】

かつて“駄菓子屋”では商品を媒介にして大人，子どもの隔てなくコミュニティ空間が形成されていきました。→松田先生はこのような駄菓子屋を取り巻く学び圏を「たがしや楽校」と名付けました。

「“もの”を媒介にすることによって私たちはコミュニケーションを図ってきた。」

そこに着目した松田先生は、人がそれぞれ持ち寄った「もの」を「見せ合う」（紹介し合う）ことによって、コミュニティ空間が生まれ、相互の学び合い場が形成される“だがしや楽校”を山形市のある駄菓子屋の前の公園で始めました。



自分が持ってきた“もの”を紹介する参加者。和気あいあいとした雰囲気形成されました。

“だがしや楽校”の魅力について語る松田先生

【自分店(みせ)を開いてみよう】

今回の研修会では、実際に参加者が持ち寄ったものを見せ合う「自分店」を体験しました。マジックを紹介したり，工作物をみんなで作ったりする活動を通して，ごく自然に参加者が打ち解け合い，相互交流が図られていく“だがしや楽校”の世界。

参加者が教える側になったり，教わる側になったり・・・。

“だがしや楽校”はまさに「我以外皆我が師なり」を具現化した世界のようにもありました。

自分の持ち味，特技，作った物を見せ合う「自分店」をそれぞれの地域や活動の場，活動対象者に応じて工夫することにより，人と人が自然とふれ合える温かなコミュニティ空間を演出できることを学んだ研修会となりました。【参加者の感想(一部抜粋)】

